

令和3年度全国なぎなた指導者研修会



吉井和代講師による実技指導

令和3年度全国なぎなた指導者研修会（主催＝日本武道館、全日なぎなた道連盟、後援＝スポーツ庁）が11月26日～28日の3日間、千葉県・勝浦市の日本武道館研修センターで実施された。

今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加募集定員を縮小したため、前半を1班、後半を2班（各一泊二日）に分け行った。1班は全国でなぎなたを指導する部活動指導者、地域指導者や保健体育科教員免許取得見込みの学生計30名、2班は中学校保健体育科教員、授業協力者計15名を対象に、教科体育「なぎなた」の理解を深め、専門的な知識・技能の習得を図るため、講義や実技指導が行われた。

■1日目（11月26日）

開講式では、はじめに谷本良子全日本なぎなた連盟理事、吉川英夫日本武道館理事・事務局長が、それぞれ主催者挨拶を述べた。その後、増田桂子全日本なぎなた連盟審査員が講師を代表して挨拶を行った。

開講式後、大道場にてA、B、Cの3グループに分かれ基本を中心とした実技指導がそれぞれ行われた。

実技①の時間は、1対多数、振り、指揮・指導法を行った。実技②の時間は、防具を着けての基本を行った。すねと小手を着けてのすね打ち指導では、刀筋正しく振れているかどうか、有効打突になる打突ができていないかどうか基本動作の指導が入念に行われた。

中学校武道授業についての講義では、増田講師がスライドを用い、教育現場での授業協力者としての指導について注意点を解説した。

■2日目（11月27日）

午前6時から自由練習（任意）を行い、朝食後の実技③の時間では、しかけ応じの指導法を中心に

実技を行った。受講者からは、子どもを指導する際の疑問点について質問が出ると、講師は、象徴的な表現ではなく、実技を示範し、具体的な留意点の解説・指導を行った。

閉講式では、谷本講師が主催者挨拶を行い、1班の日程を全て終了した。

2班の開講式では、はじめに今浦千信全日本なぎなた連盟常務理事、吉川英夫日本武道館理事・事務局長が、それぞれ主催者挨拶を述べた。その後、谷本講師が講師を代表して挨拶を行った。開講式後は中学校武道授業必修化に伴う「なぎなた」授業の推進講義を今浦講師がスライドを用い行った。続いて大道場で実技①を行った。中学校保健体育科教員の班は、なぎなたの部位の説明にはじまり、足さばき、構え方、しかけ応じの二本目までを習得することを目標に練習に励んだ。授業協力者の班は、指導対象者に応じた指揮の仕方などを学んだ。

実技②の時間では、中学校保健体育科教員班は、防具を着けた講師の面やすねを打突する練習を行い、授業協力者の班は、防具を着けての基本打ち込みや、打たせ方、示し方など指導法を学んだ。

■3日目（11月28日）



今浦講師による中学校保健体育科教員班の指導

中学校保健体育科教員班の受講者は、授業指導法を学んだ後、6時間単元の3時間目授業を想定した模擬授業で教師役を務めた。授業協力者班の受講者は生徒役となり、なぎなたを専門としない体育教師が指導するなぎなた授業を体験した。その後、授業の振り返りを行った後、全体でしかけ応じを行った。

閉講式では、今浦講師が主催者挨拶を行い、研修会の全日程を終了した。